

2019 CANADA / TORONTO HOMESTAY REPORT



概要

■ プログラム内容

日程：2019年7月20日(土)～31日(水)

5月19日(日) 第1回事前研修@東北福祉大学

6月23日(日) 第2回事前研修@東北福祉大学

7月20日-21日 出発前事前研修@JFNセンター3F / Support Our Kids事務局

7月31日(水) 解散式@羽田空港 会議室 富士

訪問国：カナダ(トロント)

参加者：9名(中学3年生～高校2年生)

内容：ホームステイ

ミニサマーキャンプ

異文化交流

震災プレゼンテーション

Holland Bloorview Kids Rehabilitation Hospital訪問

(日加修好90周年を記念し大漁旗の作成・寄贈)

日本文化(お茶)のプレゼンテーション

日系文化会館訪問(日系人ヒストリーWWⅡ体験者とのセッション)

コスモポリタンシティートロントの中に住む、移住体験者とのセッション(ソーナム氏講演会)

観光(ナイアガラの滝)

■ 後援

在日カナダ大使館

■ 協賛・協力

Rotary Club of Toronto Forest-Hill、ShowFlex International Inc.、新風義塾、在トロント日本国総領事館、在日カナダ大使館、チャコ瀬戸山氏、ジェームズ松本氏、トロント日系福音教会、日系文化会館、株式会社伊藤園、三菱食品株式会社、株式会社ウジエスーパー、株式会社マイヤ、株式会社マルト

■ トータルプロデュース

チャコ瀬戸山氏、ジェームズ松本氏

※6月22日(土) SOK charity dinner party in Toronto

❖その他、チャリティにご参加いただいた皆様、ご寄付を頂いた皆様はじめ、多くの皆様のご支援ご協力を頂いております。

ご支援、ご協力をいただきました皆様、ありがとうございました。



スケジュール

カナダホームステイ 2019 スケジュール
 Support Our Kids Canada Homestay Program Schedule
 July 20th ~ July 31st

日程/DATE	午前/AM	午後/PM	夜/NIGHT TIME	宿泊先 /Accommodation
DAY 1 7/20 土	東北→東京 Travel to Tokyo	事前研修 (都内) Orientation		Tokyo
DAY 2 7/21 日	事前研修 → 成田空港 Orientation → Narita Airport	日本出発 / Flight departure to Toronto AC 006 NRT→YUL 17:30 16:45 AC 425 YUL→YYZ 19:00 20:22		ホームステイ@トロント Homestay@Toronto
DAY 3 7/22 月	英会話レッスン (+実践) / ★震災プレゼンテーション English Lesson / Earthquake Presentaion			ホームステイ@トロント Homestay@Toronto
DAY 4 7/23 火	★Holland Bloorview Kids Rehabilitation Hospital訪問(日加修好90周年記念プログラム) Visit Holland Bloorview Kids Rehabilitation Hospital(Canada - Japan 90 Years)		スイミング、合唱 Swimming / Chorus	ホームステイ@トロント Homestay@Toronto
DAY 5 7/24 水	日系人の歴史を学ぶ心構え Preparation for visiting JCCC	★日系人ヒストリー-WWⅡ体験者とのセッション Japanese Canadian History - WWII experience talk		ホームステイ@トロント Homestay@Toronto
DAY 6 7/25 木	ナイアガラ観光 Niagara Falls Tour		英語でのテーブルマナー Table manner lesson in English	ホームステイ@トロント Homestay@Toronto
DAY 7 7/26 金	震災プレゼンテーション練習/お茶のプレゼンテーション Earthquake / Japanese Green Tea Presentaion	コスモポリタンシティートロントの中に住む、 移住体験者とのセッション Talk session with a immigrant living in Toronto	★フェアウェルパーティー → ホームステイ先へ Farewell → Homestay	ホームステイ@トロント Homestay@Toronto
DAY 8 7/27 土	ホストファミリーと過ごす Day with host families			ホームステイ@トロント Homestay@Toronto
DAY 9 7/28 日	ホストファミリーと過ごす Day with host families	トロント日系福音協会訪問 Japanese Gospel Church of Toronto	ホストファミリーと過ごす Day with host families	ホームステイ@トロント Homestay@Toronto
DAY 10 7/29 月	ホストファミリーと過ごす Day with host families			ホームステイ@トロント Homestay@Toronto
DAY 11 7/30 火	空港へ / 解散式(トロントピアソン) Travel to Airport / Closing Ceremony	トロント出発 / Flight departure to Tokyo AC 001 YYZ→HND 13:40 15:40+1		機中泊 Overnight Flight
DAY 12 7/31 水	フライト/ Flight	解散式(羽田空港会議室) Closing Ceremony	東京→東北 Travel to Tohoku	

★Earthquake presentation



渡航前事前研修①

会場：JFNセンター 3F 会議室
日時：7月20日（土）13:00～17:00



【プログラム】

- ・事務局ご挨拶
- ・ご来賓紹介
- ・参加生徒自己紹介
- ・現地プログラムについて
- ・カナダについて各自調べてきたことのプレゼンテーション
- ・ケーススタディ/危機管理
- ・震災プレゼンテーション
- ・お茶のプレゼンテーション
- ・グリズデル・バリージョシュア氏
特別講座
- ・講評
- ・集合写真

鳥村氏からは感謝の気持ちを伝えることの重要性、実践形式を交えたホームステイの心構えを、グリズデル氏からは諦めない心、カナダ、トロントのモザイク文化、異文化コミュニケーションや多様性などについて教えて頂きました。

【ご来賓】

- ・駐日カナダ大使館 二等書記官（広報）
クリスティーン・カラハン氏（ビデオメッセージ）
- ・アゼリーグループ
理事長 来栖 宏二氏
HR統括 諸岡 学氏
- ・Accessible Japan / アゼリーグループ
グリズデル・バリージョシュア氏
- ・Support Our Kids企画委員
鳥村 征弘氏



渡航前事前研修②

会場 : Support Our Kids事務局
日時 : 7月21日 (日) 8:30~11:50



【プログラム】

- 震災プレゼンテーション
- 日本文化を伝える ～お茶の心～
(お茶のプレゼンテーション)
- 個人・チーム目標の設定
- OB OGからのアドバイス

2015年オーストリアステイ及川智香さんはカナダの公用語でもあるフランス語や考え方について、2016年アメリカステイ秀岳卓哉さんはステイ中の心得やリーダーシップとチームビルディングについて、2017年カナダステイ西田舞さんはカナダホームステイの特徴について、自身の経験と共に熱いメッセージを送っていただきました。

2日目午前中の事前研修では、1日目に上手くいかなかった震災やお茶のプレゼンテーションの改善をするためメンバーでどうすれば良く伝わるかを話し合いました。話し方や内容についても、OGやOBさんも的確にアドバイスをしてくれたのでとても役立てることが出来ました。
【Tsubasa Horie(福島県 高校2年)】

チーム目標

【チーム名 : Pure Sprit】

2019年カナダ(トロント)ステイの目標は『伝える』。言語や文化の異なる海外の方に自分達が震災を通じて体験したことを伝える。ホームステイ先では東日本大震災の状況に関して動画を見せたり当時の新聞や資料、パンフレットなどを通して復興に向けて進んでいる現状と合わせて紹介しました。震災以降、支援を頂いた方々へ感謝を伝える。日加修好90周年を迎え、これまでの繋がりへの感謝を伝える。伝えるためには素直になることが必要。純粋な心でチームの仲間と協力し、素直にアドバイスを聞き入れ、本当の、心からの想いを伝えてきました。



ミニサマーキャンプ①

【現地の子もたちとの交流／合唱・スイミング・ゲーム】

例年参加させて頂いていたトロント日系福音教会主催のサマーキャンプにかわり、現地プログラムコーディネートを行ったださっているチャコ瀬戸山氏、ジェームズ松本氏宅にて、一週間弱のミニサマーキャンプを開催して頂きました。10名のローカスチューデント、13名のキャンプカウンセラー、総勢30名を超えるボランティアの皆様にご協力いただきました。恒例の英語の歌の合唱、カナダ特有の遊びなども含め交流を深めながら学びました。



【ESL (英会話教室) / ショッピングセンターでの実践】

現地の子もたちとともに実践的な英会話レッスンから開始。午前中は自己紹介、カナダの地理や歴史、著名人、日本との違いについてゲーム形式の授業を通して学びました。午後には実際Scarborough Town Centreを訪れ授業で学んだランチのオーダーを実践。お土産を探し、購入時にコミュニケーションをとるなどすぐさま学びを活かしました。帰宅時は地元のバス (TTC) に子どもたちだけで乗車し、公共交通機関の体験を行いました。街並みを見学し、出国前にグリズデイル氏から伺ったカナダ、トロントらしさがたくさん見つかりました。

Introduction Game

- Self introductions in English
- Find Someone Who....
- 自己紹介ゲーム
- 各質問に該当する人を探し、その人の名前を書く
- できるだけ同じ人の名前を書かないようにする



【テーブルマナー】

カナディアントラディショナルクリスマスディナーと題し、真夏のトロントでターキーを頂きました。食器の置き方、使い方、料理を皆で回してとっていき、片付け。皆で協力して異なる文化について学びました。その後は、これまでのミニキャンプを各自が振り返り、全員の前で発表しました。



ミニサマーキャンプ②

【震災プレゼンテーション】

自分たちの体験が伝わるように、ビジュアルに加えて発表原稿が同時に表示されるスライドを準備。「伝える」気持ちを前面に出し、当時の客観的な事実に加えて、そこから自分たちが得たもの、防災対策として何ができるのかをプレゼンテーションしました。連日ネイティブスピーカーであるローカルスチューデントに指導をもらい、発音や表現も改善しました。最終日には、チーム全員の経験や学びが記されたパンフレットをお渡ししました。



【お茶のプレゼンテーション】

ミニキャンプではローカルスチューデントと保護者へ、JCCCではお越しいただいたゲストの皆様へ、ホームステイ先では各自がお茶のプレゼンテーションを行いました。クイズ形式を取り込み、分かりやすく日本茶の特徴を解説しました。また、水出し茶と温かいお茶を提供することで、それぞれの違いを実感していただきました。



【トロント日系福音教会訪問】

7月28日（日）に例年お世話になっているトロント日系福音教会を訪問。100名を超える参加者の前で、2013年からのSupport Our Kidsのカナダ（トロント）ステイへのご支援への感謝の想い、今年のホームステイプログラムで体験したこと、OBOGの現状を報告させていただきました。



Holland Bloorview Kids Rehabilitation Hospital訪問

【Holland Bloorview Kids Rehabilitation Hospital訪問】

日加修好90周年である本年、トロントにあるHolland Bloorview Kids Rehabilitation HospitalのSpiral Gardenにて、交流プログラムを開催していただきました。現地の子も達とのアクティビティに加えて、両国の繋がりの感謝の気持ちがこもった復興の象徴でもある大漁旗に参加者全員で手形を押し完成させることができました。大漁旗はラグビーカナダ代表チームに寄贈され、釜石でも試合が行われるラグビーワールドカップを戦った一年後にトロントに戻ってくることとなりました。院長Julia Hanigsberg様、Rugby CanadaのAl Charron様、伊藤恭子 在トロント日本国総領事、ロータリーの皆様、チエコ・ポンド様、現地の子も達、大漁旗を制作していただきました伊藤染工場様をはじめ、ご協力いただきました全ての皆様に心より御礼申し上げます。



写真左 : 在トロント日本国総領事 伊藤恭子様、Rugby CanadaのAl Charron様との記念写真
中央 : Support Our Kidsよりカナダラグビーチームへ大漁旗の贈呈
右 : CTVにてインタビューが放送されている様子

・現地でのニュース、メディア等で掲載頂いた記事一覧

【CTV NEWS Toronto】: <https://toronto.ctvnews.ca/students-from-japan-visit-toronto-children-s-rehab-hospital-1.4520367>

【Toronto.com】: <https://www.toronto.com/news-story/9516341-toronto-hospital-welcomes-japanese-students-to-celebrate-diversity/>

【在トロント日本国総領事館】: https://www.toronto.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/b_000402.html

【TORJA】: <http://torja.ca/support-our-kids-1909/>

【NIKKEI VOICE】: <http://nikkeivoice.ca/making-new-friends/>



コスモポリタンシティートロントについて学ぶセッション

【コスモポリタンシティートロントの中に住む、移住体験者とのセッション】

ご支援を頂いているロータリーにも所属されているSonam Choeden氏はチベットからの難民でカナダに移住されました。カナダという国は世界の人種のほとんどが、平和に生活している国です。しかし、各々のバックグラウンドは想像を絶する苦難の道があること、それをどのように乗り越えてきたかという貴重な体験談とメッセージを頂戴いたしました。また、教育の大切さを学び、記念品として文房具セットを各自頂戴しました。



【チャコ瀬戸山氏からのメッセージ】

SOKトロント代表でもあるチャコ瀬戸山氏の日系人一世としての体験談をお聞きし、トロントの日系人のこれまでの歴史についての理解を深めました。教育の大切さ、伝えることの重要性、第二次大戦であらゆるものを失い、ゼロから立ち上がった日系人のスピリットについて学び、午後の日系文化会館訪問への準備となりました。



【Inclusion/Accessible/Diversity in Toronto】

研修でのグリズデイルさんのお話、トロント現地の方々からトロントの移民社会や共生社会について学び、ホームステイの期間中、各自どのような取り組みがなされているかを探し、レポートにまとめてきました。



探してみても初めて、社会にはバリアフリーがたくさんあることを知ることができました。障害を持つ人たちにとってとても大切なことですし、私たちもそのことについて考えていかなければならないと思います。相手を思いやるということに関して視野が広がりました。

【Kodai Hatakeyama(宮城県 高校2年)】



日系人ヒストリー-WWⅡ 体験者とのセッション

【日系人ヒストリー-WWⅡ 体験者とのセッション】

JCCC(日系文化会館)にて、震災プレゼンテーションを実施。その後、日系人の歴史の展示を解説していただき、終戦後からカナダに50年住んでいる澤田一さん、第二次世界大戦の際、日系人強制収容所に収容され、幾多もの困難を乗り越えてきたキオ・シバタニさんのお二人からそれぞれの体験談を2グループに分かれて聞かせていただきました。東日本大震災を経験した子ども達の経験を共有し、第二次大戦を経験されたお二方のお話をうかがい、日系人の歴史を学ぶことで、自身や東北の将来について大切な事を学ぶ貴重な機会となりました。



今日は、JCCCに行って日系人の歴史や第二次世界大戦にて行われた日系人の強制収容について学びました。多くの1世、2世、3世、4世などについて知ることができました。一番心が傷んだのは、日本人が強制収容されていたということです。自分と同じくらいの年齢の人がたった1つのスーツケースに荷物をまとめて家を離れなければならないという気持ち、その時の心の痛みが感じられる瞬間でした。皆さんは"24時間以内に1つのスーツケースに荷物をまとめて強制収容所に行くとしたら何を持っていきますか？"私は衣類なんかじゃなく、大切な人々との思い出の品をかき集めて持っていくでしょう。私にとって大切なものはやはり周りの人だということに気付かされた1日でした。これからは、もっと質問をしっかりと考えて話を聞くようにしたいです。そして、こんなに貴重な話を聞くことができるのも支援者の皆様の支えがなくてはできないことだということに気付かされました。

【Mina Yamauchi(宮城県 高校1年)】

JCCCでは、実際に第二次世界大戦の際に迫害を受けた方の話を聞く時間がありました。私のグループで話して下さった方は、カナダに若いころ移り住んだ方でした。日本で経験した戦争のことや、空襲から逃げた話など普段は聞くことが出来ないような話しをしていただき、貴重な体験をすることができました。私たちが、水でいれたお茶を提供した際に、「日本に早く帰りたい」と言っていました。私にとって海外で暮らせることは夢のようなことではないかと思っていましたが、実際に海外で暮らしてみると改めて気づいた日本の素晴らしさがあると教えていただきました。

【Sakura Suzuki(岩手県 高校2年)】



ナイアガラの滝観光

【ナイアガラの滝観光】

トロント近郊の観光名所であるナイアガラの滝を訪れました。片道2時間かかる距離を毎年お世話になっている ShowFlex のガイドの方に連れて行っていただき、カナダの大自然を目の当たりにしました。道中のガイドでは、日本とカナダの違いをお話して頂き、東北の現状についても共有をさせて頂きました。お昼はナイアガラの滝を一望することのできるレストランにてビュッフェスタイルのランチを楽しみました。帰りには、世界でも珍しい秒針のある花時計で記念撮影。仲間とのきずなを深めた忘れられない一日となりました。



道中でのガイドが非常に面白く、日本とカナダの違いについてとても勉強になりました。気温が暑かったがジメジメとしていないので、改めて日本と違う国にいると改めて感じました。ナイアガラの滝では、船に乗って目が開けられないほど滝の近くに行くことができましたし、帰り道に寄っていただいた花時計は、世界でも珍しい秒針の付いている花時計で珍しいことがわかり、観光地について学ぶことができました。

【Shoki Kamada(岩手県 中学3年)】

私はこの一日で仲間と絆を深めることができました。とても嬉しかったです。また、カナダがもっと好きになりました。

【Rara Kumagai(宮城県 中学3年)】



フェアウェルパーティ／解散式

【フェアウェルパーティ】

フェアウェルパーティではキャンプで出会った友人を含め、50名を超えるの支援者の方々にお集まりいただきました。震災プレゼンテーション、カナダで学んだこと、ホストファミリーへの感謝の言葉を伝え、合唱、食事、歓談を楽しみ、別れを惜しみながらそれぞれのホスト先に出発していきました。6月のチャリティでお世話になった日系文化会館、ロータリーの関係者様にもお越し頂き、直接御礼を伝えることもできました。



【現地解散式】

朝早くからホストファミリーがトロント・ピアソン国際空港までお見送りに来てくださいました。全員で感謝の歌を歌い、思い出を形にした記念品を贈呈し、記念撮影をして別れの時間を惜しまました。



今日は、カナダステイ最終日でした。空港では、ローカスチューデントやホストファミリーの方々が見送りに来てくださりと嬉しかったです。私たちが見えなくなるまで、手をふってくれた姿を見てとても感動しました。今日私が学んだことは、カナダステイで学んだ記録をこれからの生活の中しっかり振り返り、さらに成長できるようにすることです。ただ学んだことだけでは、将来に生かせないし、カナダステイに参加した意味が無くなってしまいます。また、仲間を大切にするということも学びました。9人の大切な仲間とこれからも連絡をとりあったり、大漁旗に書かれているメッセージのようにsupport each otherしたりしていきます。

【Raimu Yusa(福島県 高校1年)】

ホームステイで学んだことのひとつは、異国の文化、特に宗教についてです。日本にいとあまり宗教の意識はありませんが、カナダは違いました。毎週教会に通って聖書研究をしたり、毎日お祈りをしたり、とても信仰が深いことがわかりました。様々な問題が起こる原因のひとつに宗教があります。以前まではそんな架空の価値観の違いで争いを起こすなんて、と思っていました。しかし、生活に強く根付いた重要な価値観として尊重し、今後は人の関わり方を気をつけていきたいと思ひます。

【Kodai Hatakeyama(宮城県 高校2年)】

Support Our Kids



ホームステイ

【ホストファミリーと対面・日本文化のプレゼンテーション】

ミニキャンプが終了し、フェアウェルパーティにてホストファミリーと初対面。翌日からは、各自の興味に合わせてトロント市内、郊外への観光を家族で行いました。ホストファミリーに東日本大震災での経験に関して準備してきたアルバムや当時の資料をお見せして伝えました。お茶のプレゼンテーションを行い文化を紹介し、同時にトロントではどのように日本文化が受け入れられているかを学びました。



私が今日学んだことは、新しい発見を日々考えるということです。私の場合は日本とカナダを比べたり、自分の考えとカナダ人の考えを比べたりしました。比較する対象は何でもいいと思いますが、そこから発見を見つけることが重要だと気づきました。日本に帰国しても日々新しい発見を見つけていきたいです。

【Raimu Yusa (福島県 高校1年)】

今日一日で学んだことは、なにかに夢中になることで、自分の考え方をえられるということです。ホストファミリーの皆さん、とても充実した時間を過ごすことができました。博物館にいったり、ヨットに乗ったりしたことは、私にとってとても楽しかったですし、お孫さんたちと遊べて、英語の勉強にもなりました。

【Rara Kumagai(宮城県 中学3年)】



解散式

会場：羽田空港 会議室 富士
日時：7月31日（水）16:40～17:40



株式会社マルチグループホールディングス
石山 伯夫氏

Support Our Kids企画委員
鳥村 征弘氏

カナダステイを通して学んだことは“伝える”ことの難しさです。震災のプレゼンをするときにチャコさんジェームズさんからたくさん指導を受けました。その中で最も重要なことは“伝える”ということでした。たとえ英語がうまく話せなくても“伝えたい”という気持ちがあれば相手にはきっと伝わる。チームの目標である“伝える”というワードは、私のカナダステイにとって大きな学びとなりました。

【Mina Yamauchi(宮城県 高校1年)】

私がこの12日間で1番実感したのは、今この瞬間は今しかない、ということです。カナダでの毎日は本当にあっという間だったし、今やるべきことをやらないとすぐに時間が過ぎてしまいます。伝えたいときに伝えられなくて後悔していることもあります。だからこそ、自分の意見や感謝の気持ちは思ったその時に伝えることが何より大切なことだと学びました。

【Mayu Takekawa(宮城県 高校2年)】

トロント大学では、ある部屋の一部にこのような言葉が書いてありました。「1番大切なことは、改善しなさい。話し合う、新しいことを取り入れる。討論しなさい。」自分の意見をしっかり言うことが求められるとホストマザーが説明してくれました。人と話し合うことは大切なことで、なにかを改善するときに必要なことだと学びました。

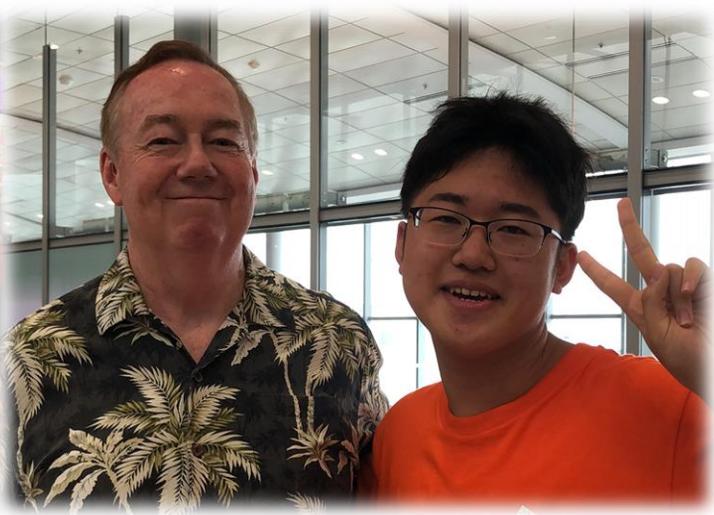
【Sakura Suzuki(岩手県 高校2年)】



参加者の感想

印象に残っている言葉は「地球人になる」です。この言葉は、ジェームス松本氏から頂きました。国や人種、年齢、性格、性別などに関わらず、笑顔で積極的に接してくれたカナダの人たちの優しさは、私が最も感動したことの一つです。私も、誰に対しても優しく素直でいられるような、地球というグループの一員でありたいと思います。地球人という言葉は、グローバル化と深く関係していると思います。しかし、グローバル化にある闇についても考えなければなりません。グローバル化に飲み込まれず、世界の中で自分の確かな立ち位置を確立し、日本を引っ張っていけるような存在になりたいと思います。視野が広がりすぎたあまり、具体的にどうなるかはまだわかりません。今後も思考を続け、少しずつ確立していきます。【Kodai Hatakeyama(宮城県 高校2年)】

2011年3月11日、僕の人生を大きく変えた出来事の一つである東日本大震災が起きました。被害は大きく、水道や電気が止まっただけでなく、津波の被害によってたくさんの死者を出しました。家から車で十分ほどの海の近くでは、津波によって、車や船がひっくり返り、柱だけ残された家、看板が折れ曲がった銀行、町並みは一変してしまっていました。その時は今のような生活、今のようなぎやかな街並みに戻れるのは遠い先のことのように感じていました。元の生活を取り戻した今、震災の経験で知ったものの大切さや、多くの物を失っても、それをきっかけに新しいことに挑戦し、新たなものを得ることができた復興の素晴らしい力を海外の人へ伝えたいと感じ、参加を希望しました。僕は思い切って挑戦してみて本当に良かったと思っています。僕がたくさんの支援者の方から与えてもらったものは、モノや形のあるものではなくずっとなくなるもののないかけがえのない財産です。将来僕も誰かにそういうものを与えられるようになりたいです。【Koki Aota(福島県 高校2年)】



SOK charity dinner party in Toronto

会場：チャコ瀬戸山氏、ジェームズ松本氏宅（トロント）

日時：6月22日（土）17:30～



本年のカナダホームステイ参加生徒受け入れの為、カナダ、トロントにて開催頂きました。チャコ瀬戸山氏、ジェームズ松本氏をはじめ、ボランティアの皆様、ご参加いただきました全ての皆様の継続的なご支援とご厚情に深く感謝申し上げます。本年は、トロントに滞在中の秋山裕乙さん(2013年カナダステイ)、三浦七海さん（2016年カナダステイ）が現地でチャリティの準備や運営に携わっていただき、当日は100名を超えるご参加者の前で感謝の気持ちを伝えるスピーチを行っていただきました。

SOK in Toronto

【チャコ瀬戸山様からのメッセージ】

毎年、選出されたSOK学生の少ない資料に注意深く目を通し、トロントでホームステイを提供して下さる家族の方々との共通点や接点を探りながら、トロントでのより良い体験ができるようにと祈りつつマッチングをさせていただいてきました。

今年は毎年参加させていただいていた福音教会のサマーキャンプが休止となり、大きな楽しい思い出を作り出してきたイベントに代わるカリキュラムを考え出すことが必至であり大変悩みました。

しかしながら、現地の学生10名、SOKの各々の子供たちにきめ細かく指導して下さる先生方15名、また特筆すべきはSOKOGの秋山裕乙、三浦七海2人の参加協力があつたことは大きな支えとなりました。

Toronto sick childrenリハビリテーションでの大漁旗づくりの交流は地元テレビでのニュースでも取り上げられ、学生たちのプレゼンテーションも大変よくがんばったと思います。英語の学習だけにとらわれるのではなく、ロータリアンとして活躍するチベットからの難民として移住をしたソーナム女史の話の聞いたり、第二次世界大戦時、すべてをカナダ国に没収された日系人の歴史を学んだり通り一遍ではない学習も現地の子どもたちと一緒に学ぶことができました。

毎日約35名分の食事の買い出しに始まり、食事作りなど今年は私自身の挑戦でもありましたが、約1週間私どもの家で寝起きを共にSOKの学生とすることは、より深く、より愛おしく彼らを見つめる機会が与えられたと感謝いたしております。

私は、約10年間東北の被災地に思いを馳せ、海外に住む日系人として祖国日本の未来にSOKの子どもたちの活躍を期待して活動を支援してまいりました。その未来は明るい確信の持てる、すばらしいSOKカナダチームのメンバーでした。“いつでもカナダに帰っていらっしやい。2019年、君たちにはもう一つの故郷ができたのだから！”

トロントSOK代表 Chako 瀬戸山

